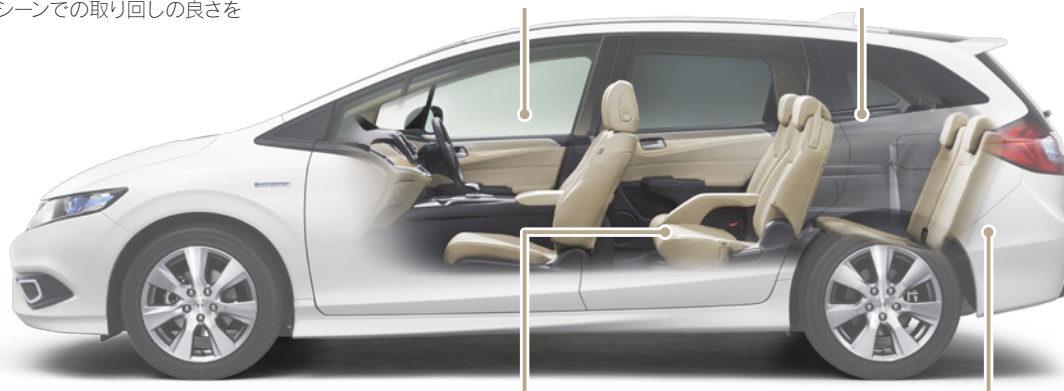


3つのゾーン各々の個性と特性を 最大限に活かす3ゾーンコンセプト。

1列目：爽快なドライビングゾーン

爽快なドライビングゾーンをめざし、セダン同等のドライビングポジションを追求。これにより、アップライトなドライビングポジションのミニバンやSUVでは味わえない、走行安定感や路面情報の質を獲得。心地よいドライビングフィールをもたらします。またピラーの工法やドアライニングの処理に工夫を凝らし、見晴らしのよい前方視界を実現。さらに側面や後方の死角を少なくすることで、車線変更やバック入庫時など、様々なシーンでの取り回しの良さを実現しています。



2列目：くつろぎのリムジンゾーン

足元の空間を広げるために2列目シートを真っ直ぐスライドさせると、ホイールハウスによって後退できる量は限られます。しかし、ホイールベースを延ばせば、取り回しに支障が生じます。そこで、ジェイドでは「Vスライドキャプテンシート」を新開発。左右のシートを約20°斜め内側に後退させることで、クラスを超えたリムジン空間を実現しています。また着座姿勢を低くし、ソファに座っているような感覚を創出。さらにサイドウィンドウを立たせることで十分なヘッドクリアランスを確保し、頭からつま先まで、ゆったりとくつろげる2列目空間を造り上げました。3列目への乗降性に配慮し、シートにはタンブル機構も備えています。

■Vスライド機構説明イメージ



3列目：多彩に使えるマルチフレックスゾーン

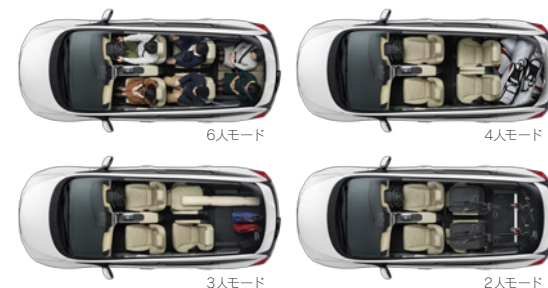
ジェイドではIPU (Intelligent Power Unit) をセンターコンソールに配置することで、広い荷室空間と3列目シート使用時のゆとりを確保。また、十分なヘッドクリアランスを得るため、テールゲートヒンジを乗員前方に配置。その上で、乗員の頭上をガラスルーフにすることで、ゆとりと外光を確保。長距離移動も快適に楽しめる空間を実現しました。



様々な状況に対応する、自在な空間アレンジ

荷室空間は90L*の容量を確保。大開口のテールゲートとすることで、荷物の積み降ろしやすさにも配慮しました。3列目シートを床下に格納すれば、さらに広い荷室が出現。また、全席左右独立して折り畳むことができるので、目的や状況に応じて、自在に空間をアレンジすることができます。

*3列目シート使用時。VDA方式によるHonda測定値。



*シートバックにカバーをしている状態。